

## 「公認資格認定制度」

### —日本スポーツ協会公認スポーツ指導員と

### 全弓連地方委員について—

指導委員会 池谷 茂

#### ●2つの公認資格

##### (A) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導員 (弓道コーチ1)

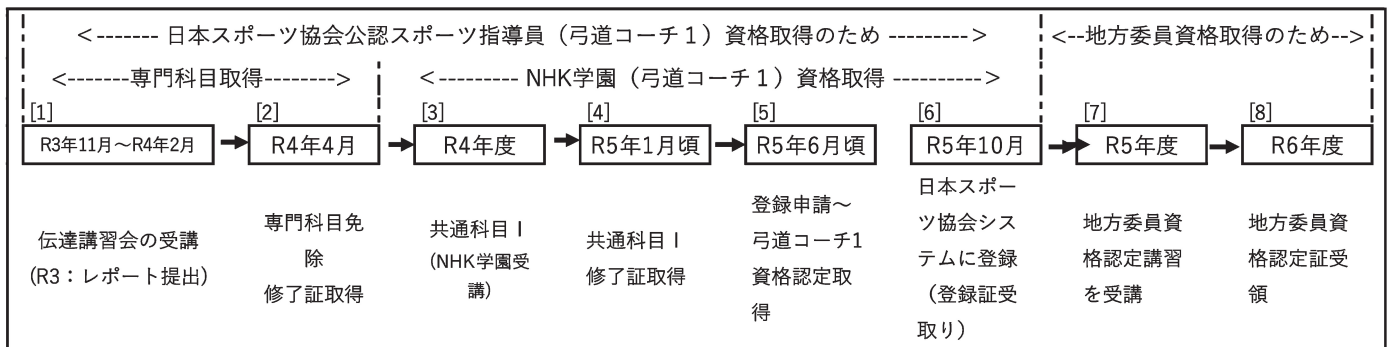
- 日本スポーツ協会が認定する資格で、スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身に付けることが目的です。
- 国体の監督はこの資格が必要です。
- 新規資格取得の手順〔①→②→③〕
  - ①資格取得に必要な専門科目(40時間の実技講習)を受講する。但し、埼玉連では40時間の実技講習を行っていない為、免除条件となる指定の伝達講習会を受講する。
  - ②専門科目の修了証を添えて、日本スポーツ協会経由でNHK学園の通信教育(共通科目I)を申込み、受講する。
  - ③共通科目I修了証明証をもって、日本スポーツ協会へ資格取得申請する。

##### (B) 全弓連が認定する「地方委員資格(審査委員・講師・審判委員)」制度

- 審査委員・講師・審判委員を務めるときに必要な資格です。
- 新規資格取得の手順〔①→②〕
  - ①前記のスポーツ指導員(弓道コーチ1)資格の取得済みが条件で、
  - ②その後、指定の認定講習会の受講と検定に合格することが必要です。

#### ●2種類の資格取得の流れ

(記載年はいまから取得に向けての流れ)



#### ●令和3年度の新規取得について

今年度、伝達講習会等の開催が困難な状況にあり、特例として以下の扱いになります。

##### (A) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導員(弓道コーチ1)資格

下記条件i~iiiのいずれかを満たす者が令和3年度中に課題レポートを提出し、埼玉連経由で専門科目免除の申請を行うことで令和4年4月に「専門科目免除修了証」が発行され、NHK学園の通信教育の受講が可能となります。

- 資格取得ができる者
  - i 条件1: 錬士取得後4年以上の者  
(教士・範士取得者含)
  - ii 条件2: 五段取得後4年以上の者
  - iii 条件3: 学校教育法の定める教員(式段以上取得済)で、弓道部指導者として所属長の推薦がある者
- 課題試験(レポート)の提出について  
以下の課題について400字詰原稿用紙4枚以上の論文を提出して下さい。

##### ○課題

- 条件1対象者: 指導者として自身のあるべき姿勢や心構えについてどう考えているか述べてよ。
- 条件2対象者: 弓道が人々に持続的に愛好されるのはなぜか述べてよ。
- 条件3対象者: 弓道部員が弓道で如何なることを学ぶことに期待するか述べてよ。

\*課題レポートに関する詳細と提出先等については埼玉連HPを確認願います。

##### (B) 地方委員資格認定

対象は弓道コーチ1取得済の人で、以下の課題レポート(3つ共)を提出してください。

- (1) 地方委員としての心構えについて
- (2) 公益法人としてのあり方について
- (3) 自然環境保護の観点から見た矢羽問題について/課題と考え方について

\*埼玉連指第10号(令和3年8月3日)文書を確認願います。